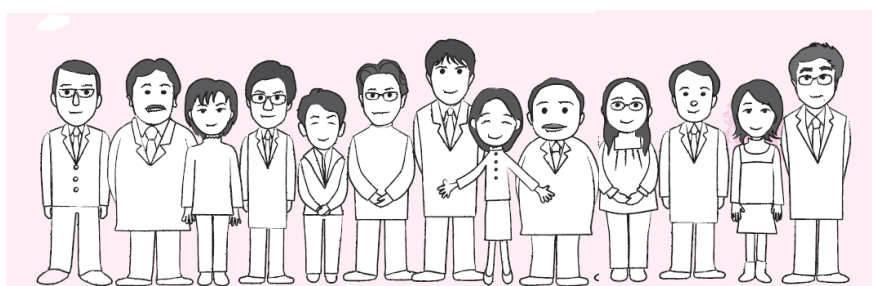


令和 7 年度活動報告

NPO 法人アレルギーを考える母の会



令和 8 年 4 月

令和7年度の活動の概要

NPO 法人アレルギーを考える母の会は、年間約 400 人から寄せられる相談に対応し一人一人と向き合って健康を回復してもらう活動を中心に、患者も適切な医療を知り自ら治療に取り組むアドヒアランスを育て自己管理を可能にする講演会・学習懇談会活動、建設的で具体的な提案と協力を惜しまず患者を支える社会の仕組みづくりを働きかける調査・研究、提言活動に取り組み、活動開始から 27 年目を迎えた。

令和7年度は、コロナ禍以降、開催形態をオンラインに変え、全国から参加できる「アレルギーの子どもたちを支える専門職の研修会」（後援：文部科学省、厚生労働省、こども家庭庁）を実施したほか、基幹活動として取り組み 20 回目となった「アナフィラキシー親子のための懇談会」の開催、アレルギー疾患対策の推進に向けた厚生労働省との意見交換、自治体等との連携、個別の学校や幼稚園などの要請を受け研修会を行うなど、幅広い活動に取り組んだ。

1999年8月設立 2008年4月NPO法人化

「母の会」はアドボカシー団体です

周囲の理解が得られず、孤立してアレルギーに苦しんでいる患者さんを守り、健康を回復してもらうために

- 相談活動：一人を大切に、共感と励ましを送り適切な医療や学校・園・行政によるサポートへ橋渡しします
- 講演会・学習懇談会活動：羅針盤となる「治療ガイドライン」をともに学び、自ら治療に取り組むアドヒアランスを育て、自己管理を可能にします
- 調査・研究、提言活動：建設的で具体的な提案と協力を惜しまず、アレルギー患者を支える仕組みづくりを働きかけます

令和7年度の個別の事業内容

(1)アレルギーの子どもたちを支える専門職の研修会（オンライン+オンデマンド）



研修会の運営は横浜市内の貸会議室で行った

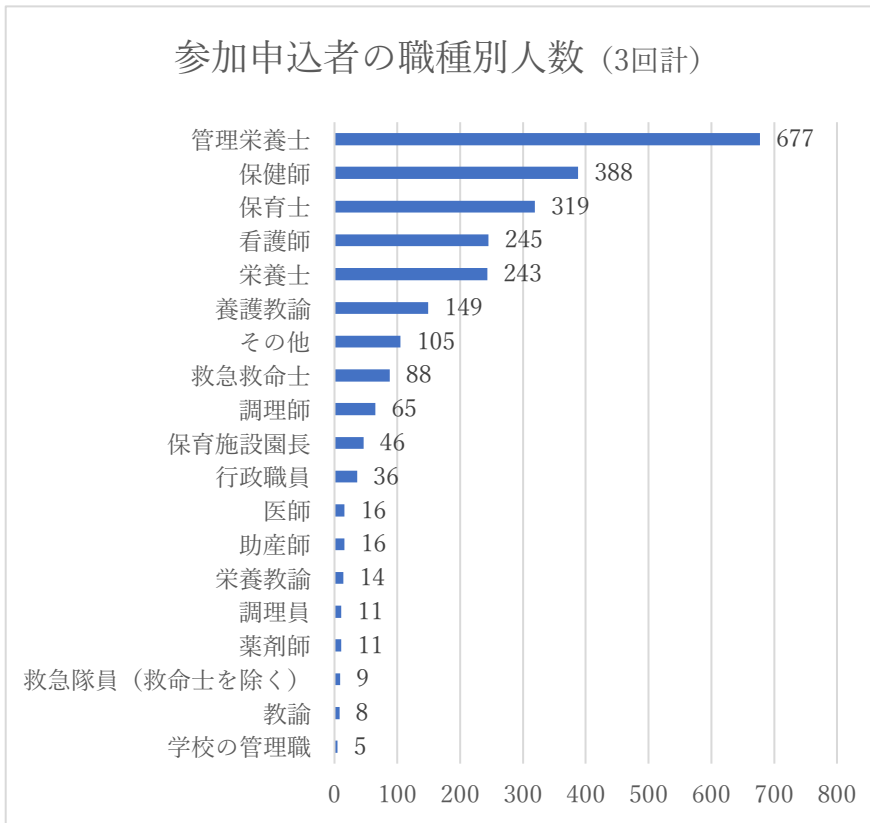
成長する子どもたちにかかわる専門職が食物アレルギーなど小児アレルギー疾患の最新知識と緊急時を含めた適切な対応、スキンケアや離乳支援など母子保健事業における取り組み、災害時に求められる支援などについて実践的に学び、適切な支援が行われるようになることを目的にオンライン研修会を開催した（後援：厚生労働省・文部科学省・子ども家庭庁、（公財）ニッポンハム食の未来財団助成事業）。

研修会は、第1回（令和7年12月5日）「広がる食物アレルギーのリスク、子どもに関わる施設に求められる対応」をテーマに今井孝成先生（昭和医科大学医学部小児科学講座教授）、第2回（12月11日）「アレルギー児が

	参加者数	視聴回数
第1回	840	2382
第2回	463	873
第3回	707	1206
合計	2010	4461

社会で輝くために～小児期から成人期を見据えた学校・園での対応と就学・就労の両立支援」をテーマに矢上晶子先生（藤田医科大学総合アレルギーセンター・センター長）、第3回（12月16日）「乳幼児期のアレルギーの保健指導に必要な知識と具体的な展開」をテーマに古川真弓先生（さいわいこどもク

リニック、前東京都立小児総合医療センターアレルギー科）、「能登半島地震などから考える災害時のアレルギー患者支援と、行政の動き」をテーマに会事務局長が講師を担当した。研修会はいずれも3時間の予定で行われたが、事前に寄せられた質問に加えて参加者からの質問が相次ぎ、各回とも研修会終了後も続いた。さ



さらに12月25日から令和8年1月31日まで研修会のオンデマンド配信を行った。

オンライン研修会第1回には教職員や保育士、教育委員会、自治体の担当職員など840人、第2回には養護教諭を中心とした教員など463人、第3回には自治体の保健師、管理栄養士など707人が参加した。業務の空き時間などに学べるオンデマンド配信の視聴回数は、第1回が2382回、第2回が873回、第3回が1206回だった。これにより研修会参加者は合計2010人、オンデマンド視聴は計4461回となった。参加者に研修内容の評価を聞くアンケート（回答数617人）では、55%に当たる339人が「業務に大いに役立つ」、45%に当たる276人が「役立つ」など、ほぼすべての参加者から高い評価を得た。

またオンライン研修では参加者に「アレルギーの保健指導に携わる保健師など専門職と自治体の取り組みの現状」について聞くアンケート調査を行い、結果について第42回日本小児臨床アレルギー学会学術大会（令和8年7月開催）で報告を予定しているほか、厚生労働省がん・疾病対策課に報告した。

(2)第 20 回「アナフィラキシー親子のための懇談会」を開催



昼休みには講師を交えて懇談も行った

7月13日(日)、20回目となる「アナフィラキシー親子のための懇談会」を横浜市中区の横浜市開港記念館で開催した。午前中は藤田医科大学教授、同大学総合アレルギーセンター長の矢上晶子先生を講師に迎え、「おしゃれに潜むリスクなど知っておきたいアレルギーの落とし穴」をテーマに、日常生活を普通に送っていても起きる、回避できるアレルギーについて、生活の場面に合わせて分かりやすく話していただいた。午後は、みんなで討論会「アレルギー政策・施策を進めるために患者が果たせる役割」と題し、日頃から連携している4つの患者会リーダーが報告を行ったほか、患者を支えるアレルギー施策を進めるために、国や自治体などにどう働きかけていったらよいのかなどについて、具体例を交えながら意見交換を行った。懇談会には患者や保護者、行政の政策担当者など40人が全国から参加した。

(3)政策への「患者・市民参画」(PPI)の試み

研究分野に限らず医療政策全般への広がりが期待される「患者・市民参画」(PPI)の視点から、連携する患者会とともに、国や自治体などと意見を交換、建設的な提案を行った。

- ・6月11日(水)、「母の会」など7患者団体が福岡資麿・厚生労働大臣(当時)に対し、高額療養費制度の自己負担限度額の引き上げは家計に占める医療費の割合を考慮し治療を継続できるよう抜本的に見直す、OTC類似薬の保険適用除外はアレルギー疾患の標準治療で使われる薬剤・保湿剤には適用しないことなどを求める要望を行った
- ・6月20日(金)、厚生労働省がん・疾病対策課を訪ね、アレルギー疾患対策を担当している専門官、課長補佐と意見交換を行った
- ・7月2日(水)、「母の会」が行った提案(2月20日の協議会)を受け、神奈川県が国立病院機構相模原病院を県のアレルギー疾患医療拠点病院に指定した
- ・7月9日(水)、山梨県庁で開催されたアレルギー疾患対策協議会で、委員を務める「母の会」代表が、アレルギー疾患対策基本法第13条に基づく「山梨県アレルギー疾患対



6患者会の代表が厚生労働省がん・疾病対策課長(左)らと意見交換を行った(10月1日)

策推進計画」(仮称)を策定するよう提案した

- ・ 7月18日(金)、山梨県庁を訪問し、アレルギー疾患を担当している健康増進課の2人の保健師と、県協議会(前項)で行った提案などについて意見を交換した
- ・ 7月31日(木)、横浜市が設置した「アレルギー疾患対策に係る意見交換会」に代表、事務局長が委員として出席し、提案をまとめた書面を提出したほか、児童福祉施設等での取り組みの充実、災害対策などについて意見を述べた
- ・ 9月12日(金)、公明党アレルギー疾患対策プロジェクトに出席し、厚生労働省保険局に対し16歳以上でも保険診療で食物経口負荷試験を可能とするよう強く求めた

- ・ 9月17日(水)・18日(木)、神奈川県内16市町を訪問し、乳幼児期の保健指導の推進に役立つ資料などの紹介を行った
- ・ 10月1日(水)、「母の会」など6患者会の代表が厚生労働省を訪れ、がん・疾病対策課の鶴田真也課長、2人の課長補佐、専門官と3時間にわたり意見を交換した
- ・ 11月19日(水)、会事務局長が委員を務める神奈川県アレルギー疾患対策推進協議会が開催され、新たに東海大学病院を県の拠点病院に加える、協議会を年2回開催して1回は対面で行い、必要な議論を行うことなどを提案した



7患者会が連名で厚生労働省に対し申し入れを行った(11月26日)

- ・ 11月26日(水)、「母の会」など7患者会は公明党アレルギー疾患対策プロジェクトの席上、厚生労働省に対し OTC 類似薬の保険適用除外は、アレルギー疾患の標準治療で使われる薬剤・保湿剤には適用しない、文部科学省、こども家庭庁、総務省消防庁には、薬価収載されたアナフィラキシー補助治療剤「ネフィー®点鼻液」が、学校の教職員や保育士、救急救命士によって有効に使われる環境を早期に整えるよう要望した

- ・ 12月1日(月)、行事出席のため訪れた大阪府で市役所を訪問し、母子保健や保育、教育委員会の担当者にアレルギー疾患対策に役立つ資料や情報を提供した

- ・ 3月9日(月)、群馬県感染症・疾病対策課と児童福祉課、前橋市と高崎市の保健センターを訪問し、アレルギー疾患対策、保健指導などに関連する情報を提供した



訪問した大阪府役所の前で(12月1日)

- ・ 3月16日(月)、7年度第2回の横浜市「アレルギー疾患対策に係る意見交換会」が開催され会代表、事務局長が委員として出席、「ア

アレルギーの保健指導に携わる保健師など専門職と自治体の取り組みの現状」(既報)のアンケート調査結果を報告するなど提案を行った

(4)関連学会で提案や展示、「優秀演題賞」を受賞

正しい病態の理解や最新の知見の習得、全国の医師や患者会メンバーとの交流、患者を支える取り組みの充実に向けた提案を行うため、関連学会などに参加した

- ・6月14日(土)・15日(日)、東京・三鷹市の杏林大学で開催された第41回日本小児臨床アレルギー学会学術大会に参加して展示と発表を行い、一般演題で発表した「令和6年能登半島地震被災地における活動の報告(第2報)」が優秀演題賞を受賞した



小児臨床アレルギー学会で優秀演題賞を受賞した(6月14日)

- ・6月27日(金)~29日(日)、石川県金沢市で開かれた第72回日本小児保健協会学術集會に参加して展示を行い、アレルギーの保健指導の推進に向け参加者と交流した

- ・9月28日(日)、薬剤師が参加する第19回日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会(千葉県・習志野市)で、会スタッフが「アレルギー患者家族として薬剤師の対応に期待すること」をテーマに特別講演を行った

- ・10月4日(土)・5日(日)、第62回日本小児アレルギー学会学術大会(大阪市)に参加し、展示や各地の患者会、連携のある専門医などとの交流・意見交換を行った

- ・10月24日(金)~26日(日)、第74回日本アレルギー学会学術大会(東京)に参加して研さん、全国の専門医などと交流した

- ・10月28日(火)~31日(金)、第84回日本公衆衛生学会総会(静岡市)に参加し、自治体と取り組んできた乳幼児期のアレルギーの保健指導の様子や保健センターなどの取り組みに関するアンケート結果を展示、専門職向け冊子などを配布した



公衆衛生学会で行った展示に高い関心が寄せられた(10月30日)

- ・2月7日(土)・8日(日)、長野県佐久市で開催された第27回日本子ども健康科学学会学術大会に参加して展示を行い、先生方や患者会メンバーなどと交流した

- ・2月15日(日)、「パシフィコ横浜」で開催された第26回食物アレルギー研究会に参加し、災害時の患者支援について展示、全国から集っ

た先生方や患者会メンバーと交流した

- ・3月8日(日)、「横浜そごう」で開催された神奈川県アレルギー週間講演会・患者相談会(中心者は国立病院機構相模原病院の海老澤元宏先生)の運営に協力、NPO 法人ピアサポート F.A.caféのメンバーとともに展示を行い、参加者からの相談にも対応した

(5)行政による調査、大学、メディアなどへの協力

幅広いアレルギー疾患対策の推進に向け、厚生労働省や消費者庁が行う調査や大学の授業、報道の企画などに協力した

- ・6月26日(木)、消費者庁が令和6年度事業で作成した事業者向け動画「外食・中食での食物アレルギーについて(実践編)」を公開した。動画作成にあたっては会代表、事務局長が事業の検討会に参加して内容を協議したほか、インタビュー編に登場した患者の保護者を紹介するなど協力した



「母の会」が政策に協力した消費者庁の動画

- ・愛媛新聞が10月19日(日)付け1,3面で、「給食アレルギー対応 現状は 県内 20 教委調査」を掲載、「母の会」は企画に対し「ヒヤリハットも含め過去の事例を調べてみるべき」など調査の実施を提案したほか、アンケート結果の分析について昭和医科大学小児科学講座の今井孝成教授を紹介するなど協力、記事にもコメントを寄せた
- ・11月10日(月)、川崎市立看護大学の授業「サービスマナー」で講師を務め、会事務局長が、大学からの要請に沿って活動の基本的な視点と取り組み事例を説明した
- ・12月22日(月)、消費者庁委託調査研究に関するインタビュー調査に協力し、アレルギー患者の外食・中食の利用状況、リスクなどについて意見を述べた
- ・2月2日(月)、厚生労働省の令和7年度地域保健総合推進事業「災害時における栄養・食生活支援活動のマネジメントと連携強化及び災害対応能力育成に向けた研究」のヒアリングに協力し、令和6年能登半島地震の被災自治体の実情などをもとに意見を述べた

(6) 災害対応の研修会で講師、寄稿

令和6年能登半島地震などを受けて関心が高まった災害時の要配慮者支援、アレルギー患者支援について、行政や大学などからの要請を受け研修会の講師などを務めた

- ・7月15日(火)、神奈川県社会福祉協議会が発行した月刊誌「福祉タイムズ」に「災害時にもアレルギー患者が安心できる社会へ」と題して寄稿した。被災地での活動の様子や災害時のアレルギー患者支援にかかわる法律、指針などの整備の経過と内容を紹介、

福祉課関係者との連携が広がることに期待を寄せた

- ・ 8月1日（金）、福島県健康づくり推進課が主催した「災害時のアレルギー疾患の対応力向上のための研修会」で講師を務め、参加した市町村で被災者支援を担う専門職に、地域で患者のニーズと自治体等の支援をつなぐ取り組み推進を訴えた
- ・ 12月22日（月）、愛知学院大学健康科学部健康栄養学科の栄養教育ゼミから要請を受け、管理栄養士養成課程の3年生が参加するゼミのオンライン授業で講師を務め、令和6年能登半島地震などの被災自治体の取り組みと課題などについて説明し質疑も行った



オンラインで愛知学院大学健康科学部のゼミの講師を務めた（12月22日）

・ 2月5日（木）、横浜市内で行われた神奈川県社会福祉協議会主催の会員研修会「誰も取り残さない防災と福祉の活動を目指して」で取り組みを報告し、「アレルギーなど慢性疾患患者も要配慮者という理解の広がりを期待したい」などと訴えた

・ 2月14日（土）、東京・品川区が主催した「しながわ防災学校」一般向けコース「アレルギー×防災」で講師を務め、「誰も取り残さない防災を目指して」をテーマに話した

(7)自治体が行う研修会・講演会への協力

- ・ 9月6日（土）、横浜市主催の市民向け講演会（講師：国立成育医療研究センター・アレルギーセンター長の福家辰樹先生）の会場で展示を行い、参加者の質問にも対応した
- ・ 9月9日（火）、神奈川県主催の「食物アレルギー緊急時対応研修」（講師：国立病院機構神奈川病院アレルギー科の渡辺博子先生）が海老名市文化会館で開催され、「母の会」とNPO法人ピアサポート F.A.café が展示や質問への対応などで運営に協力した



石川県健康課主催の研修会に講師の調整、当日の運営などで協力した（12月12日）

- ・12月12日（金）、石川県健康推進課が開催した「アレルギー疾患患者等支援担当者研修会」に、講師の調整や資料についての情報提供・準備に加え、当日も参加して展示や災害時の疾患支援について話すなど協力した
- ・12月15日（月）、横浜市の神奈川公会堂で行われた「横浜市小児のアレルギー疾患保健指導を学ぶ研修会」に協力し、「能登半島地震での支援活動から見た実状と提案」をテーマに報告、合わせて会場内で展示を行った
- ・12月17日（水）、神奈川県海老名市主催の食物アレルギー講演会（講師：国立病院機構相模原病院臨床研修センターアレルギー性疾患研究部長の佐藤さくら先生）に、「えびなアレルギーサークル・デイジー」とともに、展示や相談対応などで協力した
- ・12月23日（火）、神奈川県主催の「食物アレルギー緊急時対応研修」に協力し、NPO法人ピアサポート F.A.café の皆さんと会場で展示を行うとともに、能登半島地震被災地での活動から見た実情の報告と取り組みの提案を行った。



神奈川公会堂で行われた横浜市主催の研修会（12月15日）

(8)学校・幼稚園などの研修会への協力

アレルギーの子どもたちを受け入れる学校や幼稚園、放課後児童クラブなどの要請を受け、食物アレルギーの緊急時対応を中心とする研修会の講師を務めた

- ・5月10日（土）、神奈川県藤沢市の民間学童「みるちゃいんど」の研修会で講師を務め、「食物アレルギー緊急時対応マニュアル」（東京都）に沿って必要な対応を確認した
- ・5月21日（水）、神奈川県座間市の学校法人相武学園鈴鹿幼稚園の研修会で講師を務め、食物アレルギーの病態や症状が出た時の対応、園内の連携などについて確認した
- ・6月26日（木）、川崎市中原区の平間こども文化センター（児童館）で開催された放課後児童クラブ「わくわくプラザ」スタッフの研修会を担当した
- ・11月28日（金）、福島県南相馬市立石神第二小学校で研修会の講師を務めたのに加え、南相馬市役所、同市原町保健センター、相馬市保健センターを訪問して乳幼児期の保健指導に役立つ資料などを贈呈した



学校法人相武学園鈴鹿幼稚園で行った研修会（5月21日）

(9)自治体による、「母の会」作成資料の活用が広がる

乳幼児期の保健指導の推進に向けて「母の会」が作成した冊子「母子保健事業で取り組むアレルギー疾患の発症予防・重症化予防」「赤ちゃんのアレルギーが気になりな保護者の方へ」（監修：国立成育医療研究センター・アレルギーセンター長）を自治体のHPで紹介、新生児の保護者へ配布するなど活用する自治体が増え、問い合わせも相次いだ。

(横浜市) 市の「アレルギー情報サイト」に、「母の会」が作成した冊子「赤ちゃんのアレルギー疾患が気になりな保護者の方へ」（制作：古川真弓先生、監修：国立成育医療研究センター・アレルギーセンター長）を紹介し、ダウンロードできるようにした



全国の自治体で活用されている「母の会」作成の冊子

(川崎市) 市の「アレルギー疾患関連ポータルサイト」に「母の会」が作成した冊子「赤ちゃんのアレルギー疾患が気になりな保護者の方へ」を紹介し、ダウンロードできるようにした。川崎市は同冊子を令和 6 年 10 月以降、赤ちゃん訪問の機会を利用して新生児の保護者全員へ配布しているほか、乳幼児健診の協力医療機関(小児科) や妊婦健診の協力医療機関(産科)に配架するなど活用している